

ジャワ語における年少者への敬語使用

— 日本語の敬語使用と比較して —

イスマトゥル・ハサナー

(2011年10月6日受理)

The Use of Honorific Language for Younger People in Javanese
— Compared to its use in Japanese —

Ismatul Khasanah

Abstract: This paper investigated the use of honorific language by older people to younger people, on which two different surveys with conversation dialogue were conducted in both Javanese and Japanese. The survey was set up based on age and gender of the speaker and conversation partner (interlocutor) such as follows: 50-aged female lecturer to 30-aged female lecturer, 50-aged male lecturer to 30-aged male lecturer, 50-aged female ordinary person to 30-aged female ordinary person, 50-aged male ordinary person to 30-aged male ordinary person, a mother or a father to her/his daughter/son, older stranger (female/male) to younger people, and older person (female/male) to younger close-friends. The statistics revealed that the culture of using honorific language in Javanese and Japanese was significantly different. The results found that the use of honorific expressions by lecturers to students and by parents to children were applicable in Javanese, but not in Japanese. In Javanese, the use of honorific language by lecturers to students or by parents to their children do not intend for respectfulness, rather it shows the sense of affection to the conversation partner and essentially it is expected that they could use honorific language when they are talking with others.

Key words: Javanese, younger people, Honorific, Japanese, comparison

キーワード：ジャワ語，年少者，敬語使用，日本語，比較

1. はじめに

「敬語」と聞いてすぐに思い浮かぶのは「上下関係」である(坂本恵 2000 : p.73)。また、敬語を考える枠組みとして、「上下関係」と「親疎関係」(親しいか親しくないか)という二つの軸を考えることが多いことも指摘されている(蒲谷他 1998 : p.8)。

本論文は、課程博士候補論文を構成する論文の一部として、以下の審査委員により審査を受けた。

審査委員：町 博光 (主任指導教員)，白川博之，
酒井 弘，多和田真一郎

日本語において道を訊ねる時など、例えば、年齢が上の場合でも見知らぬ人(年下の人も含み)には尊敬語が使用される。ジャワ語においても、一般的には年長者が年少者に対して敬語を使う必要はない。一方で、ジャワ語では、場面の品位を保つため、恒常的な年長者から年少者への敬語使用が認められる。

菊地(1997 : p.103)は、現代日本語の敬語法を三分法よりもっと基本的な区別として、「話題の敬語」と「対話の敬語」に大別していると述べている。

菊地は、「話題の敬語」を、話し手が二人称及び三人称の主語を高める表現である「尊敬語」と、話し手が「...を...に」にあたる二人称及び三人称の補語を

高め、一人称の主語を低める表現である「謙讓語A」とに分けている。ジャワ語でも「話題の敬語」(尊敬語・謙讓語A)と考えられる用法がある。

ジャワ語では、年長者から年少者に対して敬語を使用する場面がよく見られる。例えば、年上の先生から年下の先生に、母親が子供に、祖母が孫に対してなどである。このジャワ語の敬語法のようなケースは日本語にあるのであろうか。ジャワ語の敬語法を、現実の日本語の敬語法と比較することは、両言語の敬語法の特色を明らかにするために必要なことであろう。

本稿では、ジャワ語と日本語で、年長者から年少者に対して、即ち、50代の先生から30代の先生に、50代の一般の人から30代の一般の人に、先生から学生に、親から子供などに対しての敬語使用の実態をみていく。年長者から年少者への敬語使用が一般的であるかどうかを確認するため、ジャワ語母語話者と日本語母語話者にアンケート調査をおこなった。アンケート調査を通して、年少者に対する敬語使用の両言語における妥当性の程度についてみていく。

2. 先行研究

日本語の敬語法については、多くの先行研究がある(山田 2010 [1943], 時枝 2007 [1941], 西田 1998), 南 1990, 菊地 1996・1997, 蒲谷 1998, その他)。本稿では、現代の日本語とジャワ語の敬語法について比較するため、菊地 (1997) の用語や枠組みに従いながら考察を進めていく。

また、ジャワ語の敬語法については、これまでにいくつもの研究がなされている(渋沢 1951, 崎山 1974, 染谷 1981, Purwadi 2005, その他)。染谷は、従来よりジャワ語の文の形式は、語彙と接辞の組み合わせ方によって、いくつかの階層に分類されてきたと指摘している。崎山 (1974) は、ジャワ語の敬語法を詳細に分類し、それぞれの敬語法にどのような語彙と接辞が現れるかを表1のように示している¹⁾。Purwadi (2005) も同様の分類をしている。

崎山 (1974 : p.108), Purwadi (2005 : p.25) は、年長者から地位の高い年少者に対して、その相手を敬うために最低語一類 (Antya basa) の形式を用いると指摘している。しかし、年長者の先生から年少者の先生に、先生から学生に、親から子供などに対しての敬語使用については触れていない。

ジャワ語の敬語法は、原則として語彙の取り替えによって行われる。例えば、動詞の「食べる」は3つの段階で表現される。敬意度の低い語から高い語を順に示すと、「mangan」→「nedha」→「dhahar」と使い分け

表1 ジャワ語の敬語法の分類

	語彙・接辞	常体	準敬体	敬体	最上敬体
	形式				
常体	純粹常体	○			
	最低語一類	○			○
	最低語二類	○		○	○
準敬体	常・準敬体	○	○		
	敬・準敬体	○	○	○	
	中間準敬体	○	○	○	○
敬体	純粹敬体			○	
	若敬体			○	○
	老敬体	○		○	
	最上敬体			○	○

(○印は該当する体の語彙・接辞が該当する形式に現れることを示す)

られる。それぞれ、敬意度に応じて「Ngoko(非敬形)」・「Madya (丁寧形)」・「Krama (尊敬形・謙讓形)」と呼ばれている。

「mangan」は、日本語の「食べる」, 「nedha」は「食べます」, 「dhahar」は「召し上がる」に相当する。このような語彙の取替えによる敬語表現の現象は、動詞のみならずすべての品詞 (名詞・形容詞) などでも認められる。さらに、KramaをKrama inggil (以下Kiと略す)「尊敬形」とKrama andhap (以下Kaと略す)「謙讓形」に分けることもある(Wedhawati : 2006)。これをまとめると以下ようになる。(日本語訳は、筆者が付記)

- (i) Ngoko (非敬形)
- (ii) Madya (丁寧形)
- (iii) Krama (敬形)
 - Krama inggil (尊敬形)
 - Krama andhap (謙讓形)

Wedhawati (2006 : p.10) は、Ngoko (以下、Ngと略す) を、親しい者、同じ地位にある者や、親密で遠慮を必要としない人間関係で用いられる²⁾ 最も低い階層語であると位置づけている。また、Madya (以下、Mdと略す) は、中間レベルの敬意と丁寧さを表す階層語であり、Krama (以下、Krと略す) は、親しくない者、自分より地位の高い者、年長である者に対して、敬意を表す際に用いられる最も高い階層語であると指摘している。

ジャワ語では、場面の品位を保つため、恒常的な年長者から年少者への敬語使用が認められる。例えば、年長者から地位のより高い年少者には、NgokoとKrama inggilの語彙から構成される文である「最低語一類 (Antya Basa)」の形式が用いられる。この形式は、昔から指摘されているものである (Purwadi

2005 : p25)。

しかし、現代のジャワ語では、上で述べたもののみならず、以下のような使用も認められる。(用例は筆者の作例であるが、ジャワ語母語話者数名により妥当性があることを確認している。)

母親から娘に対しての用例文

1 Nduk³⁾ Ibu pundhutke piring iku.
Ki + Ng Ng
呼びかけ 母 「取る」の 皿 その
尊敬語+e
(…), その皿を取ってもらえますか。

1の pundhut は、Krama inggil (尊敬形) であり、日本語の「お取りになる」に相当する。

祖母から孫に対しての用例文

2 Arya mboten pareng nakal nggih⁴⁾.
Ki Ki Ki
名前 否定 よい いたづらな よ
(尊敬語) (尊敬語) (尊敬語)
アリヤ、いたづらをしてはいけませんよ。

2の mboten, pareng, nggih は、順に、「否定を表すことば」の尊敬語、「～でもいい」の尊敬語であり、Krama inggil (尊敬形) に相当する。これらは、日本語には相当することばがない、上品な言い方である。

叔母から甥に対しての用例文

3 Bu Lik nyuwun jajane Le⁵⁾.
Ka Ng
叔母さん 頼む(謙讓語) お菓子 呼びかけ
(…), 叔母さんがお菓子をもらってもいいですか。

3の nyuwun は、Krama andhap (謙讓形) と呼び、日本語の「お頼みする」に相当すると考えられる。

1と2の下線部すべてに Krama inggil 語が使用されており、日本語の尊敬語に相当するものが使用されている。また、3の下線部は、Krama andhap 語と言われており、日本語の謙讓語に相当するものである。

1～3にあげた Antya Basa (最低語一類) 形式の文を、純粹常体の形式に換えると、以下のような文になる。1'～3'は、常体から構成される文である。

1' Ndhuk, Ibu jupukke piring iku.
Ng Ng
呼びかけ 母 取る+ke 皿 その
(…), あの皿を取ってもらえる。

2' Arya ora oleh Nakal ya.
Ng Ng Ng
名前 否定 よい いたづらな よ
アリヤ、いたづらをしてはいけないよ。

3' Bu Lik njaluk jajane Le.
Ng Ng
叔母さん 頼む お菓子+e 呼びかけ
(…), おばさんがお菓子をもらっていい。

Antya Basa (最低語一類) 形式は、そもそも相手を敬ってという必要がある場合に使われる。例えば、年長者から地位のより高い年少者に対して使う。しかし、現在では、年長者から地位の高い年少者に限って使われるものではなくなっている。例えば、先生から学生に、親から子供などに対しても使われる。

イスマトゥル (2009) で年少者への敬語運用法について若干の報告をしている。そこでは、ジャワ語話者と日本語話者を対象にして、年少者への敬語の適切性についてアンケート調査を試みている。

調査は、ジャワ語話者大学生50名と日本語話者大学生43名に協力してもらい行った。調査の項目を2つに分けており、場面設定を以下のようにしている。

〈項目Ⅰ〉

場面1 50代の先生から40代の先生へ「どこに行くか」を尋ねる場面

場面2 40代の男性の先生が学生へ「資料のコピーを頼む」場面

場面3 母親と子供の会話で、「ある物を買ってもらいたい」場面

場面4 50代の女性の上司から30代の女性の年下の部下へ「上司が部下に「あなた」という言葉を使って、「何かあったのかを尋ねる」場面

〈項目Ⅱ〉

場面5 「先生が学生に本を取ってもらいたい」場面

場面6 「先輩が後輩に本を借りる」場面

この調査における6場面設定の中には依頼場面が4つあった。どの依頼場面にあっても、年少者への敬語使用が適切と回答されたものが多かった。

以下に、イスマトゥル (2009) の報告をうけて、今回年長者から年少者に対しての詳細な調査を実施した。即ち、50代の先生から30代先生に、50代の一般の人から30代の一般の人に、先生から学生に、親から子供などに対してどのような敬語を使用するのかをみていく。

3. 調査の概要

3.0 調査の目的

今回の調査は、あらたに男女の区別と上下関係、親疎関係の違いを明らかにし、年長者から年少者に対して敬語表現が適切なのかをみていくものである。

3.1 調査の実施と調査協力者

調査は、2011年6月中旬(インドネシアの在中部ジャワ州のヨクヤカルタ国立大学)と2011年6月中旬・下旬(広島大学)で実施した。協力者は、ジャワ語話者(以下、ジャワ語(J))が119名、日本語話者(以下、日本語(N))が103名であった。そのうち、年齢が高いものを省くとそれぞれ、ジャワ語話者116名、日本語話者100名となった。協力者の年齢構成は、表2のとおりである。

表2 回答学生内訳人数

ジャワ語 (J)				日本語 (N)			
年齢別		男女別		年齢別		男女別	
18歳	6	男	41	18歳	32	男	35
19歳	15	女	75	19歳	45	女	65
20歳	10			20歳	13		
21歳	25			21歳	2		
22歳	43			22歳	4		
23歳	17						

本研究では、学部生の年齢範囲に限って、ジャワ語と日本語の年少者への敬語意識を探ることを目的とするため、集計では24歳以上の年齢を省いた。年齢差による敬語観の違いにより変化すると予想されるからである。

3.2 設問の内容

本調査では、16場面を設定して、各場面で使用された敬語表現が、1. 不適切；2. やや適切；3. どちらともいえない⁶⁾；4. やや適切；5. 適切かを答えてもらう形で行った。16場面は日本語の尊敬・謙譲・丁寧のそれぞれに対応させ、第三者への敬語場面を加えたものである。

また、敬語使用において、男性と女性とで違いがあることはこれまでもよく指摘されているため、本調査では、男女各場面に分けた。具体的な場面設定は以下の通りである。

場面1 昼休みに食堂で50代(女性)の先生から30代(女性)の先生へ「何を食べるのか」を尋ねる場面である。

場面2 昼休みに食堂で50代(男性)の先生から30代(男性)の先生へ「何を食べるのか」を尋ねる場面である。

場面3 ある村の喫茶店で、友達同士の50代の一般の女性から30代の一般の女性へ「何を食べるのか」を尋ねる場面である。

場面4 ある村の喫茶店で、友達同士の50代の一般の男性から30代の一般の男性へ「何を食べるのか」を尋ねる場面である。

場面5 50代(女性)の先生が30代(女性)の先生に「どこへ行くのか」を尋ねた場面である。

場面6 50代(男性)の先生が30代(男性)の先生に「どこへ行くのか」を尋ねた場面である。

場面7 ある村で、50代の一般の女性が30代の近所の一般の女性に「どこへ行くのか」を尋ねた場面である。

場面8 ある村で、50代の一般の男性が30代の近所の一般の男性に「どこへ行くのか」を尋ねた場面である。

場面9と10では、女性の先生と男性の先生が、学生に対して、更に第三者の学生(話題になる者)に対して、どのような敬語表現を使うかをみていく。場面9と10を以下のように設定した。

場面9 女性の先生がA学生に向かって、B学生について話した場面である。先生は、「Bさんは岩本先生のところで本を借りている」とA学生に教えてくれる。

場面10 男性の先生がA学生に向かって、B学生について話した場面である。先生は、「Bさんは岩本先生のところで本を借りている」とA学生に教えてくれる。

また、場面11と12では、母親と父親とでは、子供の友達に、話題になる自分の子供について、どのような敬語表現を使うかをみていく。場面11と12は、以下のように設定した。

場面11 母親が子供の友達に向かって、自分の娘について話した場面である。母親は、「娘は今隣の店で砂糖を買っている」と娘の友達に教えてくれる。

場面12 父親が子供の友達に向かって、自分の息子について話した場面である。父親は、「息子は今隣の店で砂糖を買っている」と息子の友達に教えてくれる。

更に、場面13から16では、男女の区別と親疎関係の違いによる敬語使用を明らかにするために、以下の場面

を設定した。

場面13 見知らぬ年上の女性から道を訊ねられた場面である。

場面14 見知らぬ年上の男性から道を訊ねられた場面である。

場面15 知り合い（女性）の年上の人から道を訊ねられた場面である。

場面16 知り合い（男性）の年上の人から道を訊ねられた場面である。

以上、各場面の設定と目的を簡潔に説明した。ジャワ語と日本語において場面1から16まで、年長者が年少者（話し相手となる年少者と話題となる年少者）に対して、どのような敬語使用が適切だと判断しているのかを以下でみていくこととする。

4. 調査結果と概要

以下では、16場面におけるジャワ語話者と日本語話者の敬語使用の適切性についての結果とその分析について述べる。対応させるものは、例文6から18に示している。

4.1 「何を食べるのか」を述べる場面

ここでは、場面1から場面4まで、「何を食べるのか」の敬語表現使用の結果をみていく。

場面1から4では、男女の区別と上下関係の違いによる敬語使用意識の差を明らかにすることを目的とする。場面1と2では、話し手と聞き手が先生であり、場面3と4では、話し手と聞き手が一般の人である。（場面設定は、3.2を参照）

アンケート調査では、具体的に敬意度の低い文から敬意度の高い文まであげた。本稿では、例文が適切かどうかを判定してもらい、年少者への敬語使用がどのように評価されるのかをみていくことになる。まず、ジャワ語で取り上げた例文は、以下の4から7の通りである。

4 Nedha napa Bu⁷/Pak⁸?
Md Md
「食べる」の 「何」の 呼びかけ
丁寧語 丁寧語
～さん、何を食べますか。

5 Dhahar napa Bu/Pak?
Ki Md
「食べる」の 「何」の 呼びかけ
尊敬語 丁寧語
～さん、何を食べられますか。

6 Dhahar punapa Bu/Pak?
Ki Ki
「食べる」の 「何」の 呼びかけ
尊敬語 尊敬語
～さん、何を召し上がりますか。

次に、ジャワ語に対応する日本語は、1. 「何を食べますか?」、2. 「何を食べられますか?」、3. 「何を召し上がりますか?」となる。以下のように回答が得られた。(J)はジャワ語話者の回答、(N)は日本語話者の回答である。また、適切性の下に書いてある数字は回答率(%)を示している。

表3.1 場面1から場面4の敬語使用の適切性 (J)

ジャワ語の 例文	場面			
	1(女)	2(男)	3(女)	4(男)
Nedha napa Bu/Pak?	適切 26	ど 36	ど 28	ど 23
Dhahar napa Bu/Pak?	適切 49	適切 47	適切 40	適切 39
Dhahar punapa Bu/Pak?	適切 51	適切 50	適切 49	適切 46

「ど」は、「どちらともいえない」の意である。

表3.2 場面1から場面4の敬語使用の適切性 (N)

日本語の 例文	場面			
	1(女)	2(男)	3(女)	4(男)
～、何を食べ ますか?	適切 34	適切 36	普通 31	適切 35
～、何を食べ られますか?	適切 38	適切 34	適切 28	やや 不適切 28
～、何を召し 上がります か?	適切 36	適切 28	適切 46	やや 不適切 28

アンケートの結果から、ジャワ語における場面1から4まですべてにおいて、敬語の使用がほとんど「適切」と回答されている。「Nedha napa Bu/Pak?」の丁寧語使用は、場面1では、「適切」の回答が多かったが、敬語使用については場面2から4において、「どちらともいえない」の回答が多かった。日本語では、場面1、2、3において、「何を食べられますか?」の使用も「適切」との回答が多かった。場面1では38%、場面2では34%、場面3では28%である⁹⁾。

一般人男性同士の場合、日本語では、「何を食べられますか?」と「何を召しあがりますか?」の使用が、「やや不適切」と判断されている。また、両言語ともに、アンケートの回答に、敬語使用については男性より女性のほうが「適切」とする回答が多かった。具体的に、ジャワ語では、「Dhahar punapa Bu/Pak?」の使用が、場面1では51%、場面2では50%、場面3では49%、場面4では46%である。日本語では、「なにを召しあがりますか?」が、男性に比べて女性で「適切」との回答が多かった。場面1では36%、場面2では28%、場面3では、46%である。

4.2 「どこへ行くのか」を述べる場面

ここでは、場面5から8まで、「どこへ行くのか?」の敬語表現使用の結果をみていく。

場面5から8では、話し手と聞き手が場面1から4と同様であり、男女の区別と上下関係の違いによる敬語使用意識の差をみていくことを目的とする。(場面設定は、3.2を参照)。

この設定に応じて、ジャワ語で取り上げた例文を、以下の7から9に示す。

7 Kesah teng pundi ~?
Md Md Md
「行く」の 「へ」の 「どこ」の
丁寧語 丁寧語 丁寧語
~, どこへ行きますか?

8 Tindak pundi ~?
Ki Md
「行く」の尊敬語 「どこ」の丁寧語
~, どこ(へ) いらっしゃる?

9 Tindak dhateng pundi ~?
Ki Ki Md
「行く」の 「へ」の 「どこ」の
尊敬語 尊敬語 丁寧語
~, どちらへいらっしゃいますか?

ジャワ語に対応する日本語は、1. 「~, どこへ行きますか?」, 2. 「~, どこへいらっしゃる?」, 3. 「~, どちらへいらっしゃいますか?」である。

上にあげたジャワ語と日本語の例文に基づき、両言語において、適切とされたものをみていく。

表4.1 場面5から場面8の敬語使用の適切性 (J)

ジャワ語の 例文	場面			
	5(女)	6(男)	7(女)	8(男)
Kesah teng pundi Bu/Pak?	ど 30	ど 32	ど 35	ど 42
Tindak pundi Bu/Pak?	適切 54	適切 50	適切 46	適切 39
Tindak dhateng pundi Bu/Pak?	適切 46	適切 40	適切 47	適切 38

表4.2 場面5から場面8の敬語使用の適切性 (N)

日本語の 例文	場面			
	5(女)	6(男)	7(女)	8(男)
~, どこへ行きますか?	適切 24	ど 31	ど 32	ど 28
~, どこへ行かれますか?	適切 37	適切 35	適切 33	適切 33
~, どちらへいらっしゃいますか?	不 適切 38	不 適切 35	不 適切 38	不 適切 40

ジャワ語では、場面5から8において、丁寧語の「Kesah teng pundi Bu/Pak?」の使用が「どちらともいえない」と判断される。「Tindak pundi Bu/Pak?」(tindakが尊敬語)の使用が「適切」であり、男性より女性のほうが「適切」と回答した率が高い。「Tindak dhateng pundi Bu/Pak?」も「Tindak pundi Bu/Pak?」と同様、「適切」であり、男性より女性の方が敬語の使用が「適切」とする回答が多かった。これに対し、日本語では、「どちらへいらっしゃいますか?」は、「不適切」と回答されている。しかしながら、「どこへ行かれますか?」は、女性でも男性でも「適切」とされる回答率が高い。

4.3 第三者の年少者について「物を借りる」ことを述べる場面

話題になった第三者の年少者に対しての敬語使用の適切性をみていくことになる。上下関係の中で、つまり先生が学生に向かって、話題にする他の学生に言及する際に、敬語の使用が適切かどうかをみていく。(場面設定は、3.2を参照)。

「借りる」に相当する敬語使用の適切さをみていくとするものである。

10 ~ lagi nyambut buku ~,
Ng Md
~ている 「借りる」の丁寧語 本
~は、本を借りています。

- 11 ~ lagi ngampil buku ~.
Ng Ki
～ている 「借りる」の尊敬語 本
～は、本をお借りになっている。

日本語では、1. 「～は、本を借りています。」、2. 「～は、本をお借りになっている。」が対応する。

以下、ジャワ語と日本語における、第三者に対して、「～借りている」の敬語使用の適切性をみていく。

表5.1 場面9と場面10の敬語使用の適切性 (J)

ジャワ語の 例文	場面	
	9 (女)	10 (男)
～ lagi nyambut buku ~.	ど 40	ど 41
～ lagi ngampil buku ~.	適切 33	適切 26

表5.2 場面9と場面10の敬語使用の適切性 (N)

日本語の 例文	場面	
	9 (女)	10 (男)
～, 本を借りています。	不適切 56	不適切 59
～, 本をお借りになっている。	不適切 78	不適切 78

ジャワ語と日本語における敬語使用差が顕著に表れている。ジャワ語では、丁寧語の使用が「どちらともいえない」で、尊敬語の使用が「適切」と判断されている。そして、ここでもまた男性より女性のほうが、尊敬語を使うことが適切と意識されていることが分かる。これに対し、日本語では丁寧語も尊敬語も「不適切」との回答が非常に多かった。丁寧語では、女性は56%、男性は59%である。また、尊敬語では、女性も男性も78%である。

男女差に関わらず、学生に対して、話題になる他の学生に言及する際に、ジャワ語では、尊敬語の「お借りになっている」に相当する「ngampil」の使用が適切とされるのに対し、日本語では敬語使用そのものが適切とされない。

ジャワ語では年長者から年少者への敬語が一般的であるのに対し、日本語では年長者から年少者（特に学生のような絶対的な下位者）には敬語使用が一般的ではないことが了解される。

4.4 第三者の年少者について「買っている」ことを述べる場面

ここでは、第三者の自分の子供（話題になる自分の子供）について、どのような表現を使うのかをみていく。（場面設定は3.2を参照）

ジャワ語で取り上げた例文は、以下の12と13である。

- 12 ~ lagi tumbas ~
Ng Md
～ている 「買う」の丁寧語
～は、～を買っています。

- 13 ~ lagi mundhut ~
Ng Ki
～ている 「買う」の尊敬語
～は、～を買われている。

日本語に対応する例文は、1. 「～は、～を買っています。」、2. 「～は、～を買われている。」である。以下、両言語において、適切と判断された主なものをみていく。

表6.1 場面11と場面12の敬語使用の適切性 (J)

ジャワ語の 例文	場面	
	11 (女)	12 (男)
～ lagi tumbas ~.	適切 32	適切 41
～ lagi mundhut ~.	適切 36	やや適切 36

表6.2 場面11と場面12の敬語使用の適切性 (N)

日本語の 例文	場面	
	11 (女)	12 (男)
～は、～を買っています。	適切 35	適切 35
～は、～を買われている。	不適切 94	不適切 94

丁寧語の使用において、ジャワ語も日本語も「適切」と判断されている。しかしながら、尊敬語の使用については、ジャワ語では、女性は「適切」で、男性は「やや適切」としている。それに対し、日本語では親から子供に対しての敬語使用は、女性でも男性でもほとんど「不適切」と回答されている。

現代のジャワ語では、親から子供に対して、尊敬語

の使用が認められるのに対し、日本語では、親から子供に対して、敬語の使用が認められない。ジャワ語は、どちらかと言うと絶対的な敬語法であり、どんな言語的場面においても常に一定の敬語が使用される。他方、現代の日本語の敬語では、どちらかと言うと相対的な敬語法であり、相手や場面によって敬語の使用が変化させられる。

4.5 「道を訊ねられる」場面

ここでは、見知らぬ年上の人と知り合いの年上の人に道を訊ねられる場面であり、男女の区別と親疎関係の違いを明らかにすることを目的とする。(場面設定は、3.2を参照)

場面13から16で取り上げたジャワ語の例文(14より15の方が敬意が高い)が、次の14と15である。

14 Jl. Borobududur niku pundi Dik^{10)?}
Md Ki
道の名前 「その」 「どこ」 呼び
の丁寧語 の丁寧語 かけ
ポロブドゥール通りはどこですか。

15 Jl. Borobududur punika pundi Dik?
Ki Ki
道の名前 「その」 「どこ」 呼び
の尊敬語 の丁寧語 かけ
ポロブドゥール通りはどちらですか。

また、日本語に対応する文は、1. 「平和公園はどこですか?」、2. 「平和公園どちらですか?」とした。

表7.1 場面13から場面16の敬語使用の適切性 (J)

ジャワ語の例文	場面			
	見知らぬ人		知り合いの人	
	13 女	14 男	15 女	16 男
Jl. Borobudur <u>niku pundi</u> Dik?	適切 48	やや 適切 41	やや 適切 40	やや 適切 39
Jl. Borobudur <u>punika pundi</u> Dik?	適切 43	適切 42	適切 39	適切 31

表7.2 場面13から場面16の敬語使用の適切性 (N)

日本語の例文	場面			
	見知らぬ人		知り合いの人	
	13 女	14 男	15 女	16 男
平和公園はどこですか。	適切 48	適切 46	ど 28	ど 27
平和公園はどちらですか。	適切 64	適切 60	やや 不適切 29	不 適切 33

ジャワ語では、女性の見知らぬ年上の人から道を訊ねられた際に、場面13における丁寧語使用が「適切」と回答されることが多い。他方、場面15のように女性の知り合いの年上の人から道を訊ねられた際には、「やや適切」と判断されている。場面13から場面16における、「見知らぬ年上」及び「知り合いの年上」に道を訊ねられる際に、丁寧語の使用は「適切」であるが、男性より女性のほうが「適切」との回答率が多い。

また、日本語でも、「平和公園はどちらですか?」の使い方について、見知らぬ人(女性)では「適切」(64%)、見知らぬ(男性)では「適切」(60%)とされている。一方、知り合いの人から道を訊ねられた際に、「平和公園はどちらですか?」の使用が、女性では「やや不適切」(29%)、男性では「不適切」(33%)の回答が多かった。

ジャワ語では、親しい人も親しくない人も道を訊ねられる際に、丁寧語の使用が適切とされている。これに対し、日本語では、親しい人に訊ねられる際に、「平和公園はどちらですか?」の使用が「やや不適切」もしくは「不適切」との回答が多い。

この結果から、ジャワ語では、親しい人に対して、丁寧語の使用が適切とされるのに対して、日本語では、親しい人への敬語使用が抑制される傾向があるため、親疎関係が敬語使用に影響を与えていることが分かる。

5. おわりに

本稿では、16の場面を設定することによって、それぞれの場面でジャワ語と日本語における敬語使用の適切性の度合いをみてきた。アンケートを分析した結果、両言語の敬語使用の共通点と相違点を以下のようにまとめることができる。

共通点として、以下の2点が指摘できる

- ①ジャワ語と日本語両語とも、場面や状況によっては、年少者への敬語は適切とされる。例えば、年上の先生から、年下の先生へ話しをする場合、直接話しかけ

る場合も話題にする場合も敬語使用が適切とされる。
②これまでもよく指摘されてきたように、男性より女性のほうが敬語を多く使うことが「適切」と判断される。

もっとも大きな相違点としては以下のことが指摘できる。

ジャワ語においては先生から学生に対しての敬語使用も親から子供に対しての敬語使用も適切と判断されるのに対し、日本語では先生から学生、親から子の両方ともに適切とされない。

ジャワ語において、年少者への敬語使用は従来からあったとの指摘がある (Purwadi 2005 : p.25)。この敬語は地位のより高い相手に対して、相手を敬うために使われたと説明されていた。しかし、本研究で取り上げた、先生から学生への敬語使用と親から子供への敬語使用の場合は、相手を直接敬う機能ではないと考えられる。つまり、相手に対して親愛を表すことや他の人に丁寧な言い方を使うように指導する機能もあるのではないかと考えられる。

ジャワ語に特徴的な年長者から年少者への敬語使用が、いったいジャワ人社会においてどのような機能を持っているのか、今後具体的に追求していく必要がある。

【注】

- 1) 表1は崎山 (1974 : p.107) の表から引用したものである。
- 2) 柴谷 (1981) では、Ngoko (Ng) の語彙は、話者が自分より地位が低いとみなした者にも使われることもあると指摘している。その他に、年長者が年少者にも一般に用いられる。
- 3) Ndhuk は、女の子に対しての呼びかけである。娘や孫などに使われる。
- 4) Nggih は「ya」の尊敬語であり、「はい」の意。しかし、ここでは「よ」の文末詞に相当すると考えられる。
- 5) Le は、男の子に対しての呼びかけである。息子や孫などに使われる。
- 6) 「どちらともいえない」は、以下「ど」と省略する。

- 7) Bu (Ibu) は、年上か位の高い女性に対して使う。
- 8) Pak (Bapak) は、年上か位の高い男性に対して使う。
- 9) 今回のアンケートの回答者には、広島出身の協力者が多かったため、「～れる・～られる」敬語が使用されることが多く、結果として「適切」と回答されることが多かったことも考えられる。
- 10) Dik は、年下の人に対しての呼びかけことばである。「Adik」からのことばで、「妹」あるいは「弟」の意。

【参考文献】

- イスマトゥル・ハサナー (2009) 『ジャワ語と日本語の敬語法の対照研究』 (広島大学大学院教育学研究科修士論文)
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵 (1998) 『敬語表現』 大修館書店
- 菊地康人 (1996) 『敬語入門』 丸善
- (1997) 『敬語』 講談社
- 坂本恵 (2000) 「敬語表現の意味するもの」 『神奈川大学外国語研究』 22 : 73-83
- 崎山理 (1974) 「ジャバ語の敬語」 『敬語講座 8 世界の敬語』 明治書院
- 渋沢元則 (1951) 「ジャワ語の敬語法」 『東京外国語大学論集 I』 東京外国語大学 17-31
- 柴谷臣道 (1981) 「ジャワ社会における人間関係分析のための言語社会学的方法について」 『帯大研報』 II-5, 帯広畜産大学
- 西田直敏 (1987) 『敬語』 東京堂出版
- 時枝誠記 (1941) 『国語学原論』 岩波文庫
- (2007) 『国語学原論』 岩波文庫
- 南不二男 (1990) 『敬語』 岩波書店
- 山田孝雄 (1943) 『敬語法の研究』 寶文館
- (2010) 『敬語法の研究』 書肆心水
- Purwadi (2005) *Tata Bahasa Jawa*. Media Abadi
- Wedhawati (2006) *Tata Bahasa Jawa Mutakhir*. Kanisius